

平成新山東側山麓の噴気活動

九州大学地震火山観測センター

2003年（平成15年）1月11日に平成新山東側山麓の2地点（P1, P2）から白色の噴気が立ち上がっているのが確認された。1月13日と17日の島原市との現地調査の結果、P1では2カ所、P2では5～6カ所かの噴気孔が確認された。噴気は白色無臭でほとんどの成分が水蒸気であるが、二酸化炭素（炭酸ガス）が多く含まれていることがわかった。5月および6月の調査では、気温が高いため白色の噴気はほとんど目立たないが、温度や成分の変化はほとんどない。噴気孔には地衣類が付着しており、特に新しい噴気孔とは考えにくい。また2001年（平成13年）1月に雲仙岳測候所が撮影したビデオにも噴気が確認されている。

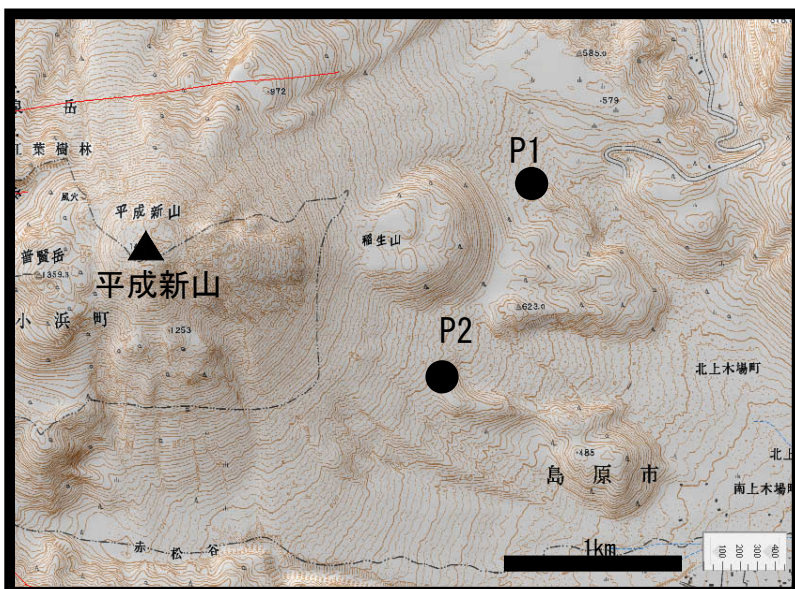
P1の下流の板底では噴火以前には炭酸泉が湧き出していたが、昭和50年10月に高濃度の二酸化炭素が噴出して、小動物が死んだり、樹木が枯死したりする被害が出ている。

P1地点	2003年1月17日測定	2003年5月27日測定
温度	39℃	38℃
臭気	なし	なし
二酸化炭素	0.4%	0.4%
水素	検出されず	検出されず
塩化水素	検出されず	検出されず
二酸化硫黄	検出されず	検出されず

P2地点	2003年1月17日測定	2003年6月1日測定
温度	52℃	51℃
臭気	なし	なし
二酸化炭素	1.3%	1.0%
水素	検出されず	検出されず
塩化水素	検出されず	検出されず
二酸化硫黄	検出されず	検出されず



P2地点の噴気地帯（6月1日撮影）
白色の水蒸気は見えない



P2地点の噴気孔の1つ